**小学生(低)礼拝9月①**

**勝利した人（ヤコブとエサウ）**

今日のお話は、聖書の中にある、ヤコブとエサウの話です。ヤコブとエサウは双子の男の子の兄弟です。今日のお話しの主人公は、この二人になります。

ヤコブとエサウのお父さんとお母さんはイサクとリベカです。エサウとヤコブは元気に生まれ、すくすくと育ちました。エサウがお兄さんで、ヤコブが弟です。

エサウとヤコブは、双子でしたが、姿も性格も全く違いました。エサウは、全身が毛深く、狩りが好きだったので、いつも野山をかけまわっていました。弟のヤコブは穏やかな性格で、天幕の中に住んで、礼拝をささげたり料理をしたりしながら、お母さんの手伝いを良くしていました。

ある日ヤコブがレンズ豆を煮ていると、エサウが狩りから帰ってきました。エサウはとってもお腹がすいていました。エサウは、ヤコブが持っているおいしそうなレンズ豆を目にしたとたん、もう我慢ができなくなりました。「ヤコブ、そのレンズ豆のあつものを食べさせてくれないか？」といいました。その時、ヤコブは「お兄さん、分りました。ただし、そのかわりに、お兄さんの持っている長子の特権を私にくれませんか？」と言いました。

長子の特権と言うのは、その家庭の長男が受ける天の祝福のことを言います。簡単に言えば、神様や親からもらえる宝物、のようなものです。エサウは、あまりにもお腹がすいていたので、このように大切なものを、レンズ豆のあつものと交換してしまったのです。

しばらくして、お父さんのイサクが、エサウを呼びました。そしてエサウに言いました。「絵サウよ、私はもう年をとって元気がない。私のために、シカの肉でおいしい料理を作っておくれ。そうすれば、私はあなたを祝福しよう」イサクはエサウに、シカの肉を持ってきたら長子権をあげる、といったのです。エサウはとても喜びました。そして、急いでシカを取りに山に出かけました。その話をお母さんのリベカも聞いていました。そして、リベカは、その話を聞いたときに、ある、神様の言葉を思い出したのです。

それは、エサウとヤコブがまだ生まれる前、お母さんのお腹の中にいる時のことです。

ある日、お腹の中にいたエサウとヤコブがお互いを押し合っていたのです。

お母さんのリベカは心配になり、神様にお祈りをしました。「私はいったいどうなるのでしょうか」すると神様は、「二つの国民がなたの体内にあり二つの民があたなの腹から分かれて出る。一つの民は他の民よりも強く兄は弟に使えるであろう」と言われたのです。

そのことを思い出した、リベカは神様の願いを悟りました。「この長子権はヤコブが受け取らなければならない！」リベカはヤコブのところにいき、伝えました。「ヤコブ、あなたはヤギをつかまえてきなさい。私がおいしい料理を作ります。それを、お父さんのところに持っていき、長子権を受けなさい。」

しかし、ヤコブは母リベカに言いました。「私がエサウではないことは、父イサクはすぐに気づいてしまいます」するとリベカは、「お父さんは年をとって目が見えなくなりました。あなたの体にヤギの毛を付けて、エサウのようにふさふさの毛にすれば、お父さんはきっとあなたのことをエサウだと信じます。心配しないで、私のことを信じなさい。」と言いました。ヤコブはリベカの言葉を信じて、その通りにしました。

ヤコブはイサクのところへ行き「お父さん私が長子エサウです。」と言いました。目の見えないイサクは、ヤコブの体をさわってエサウかどうかを確かめました。「おお、これは神様が祝福された、野の香りだ！これから、多くの人があなたについていきます。」こうして、ヤコブはイサクから天の祝福（長子権）をもらったのです。

さて、これに腹を立てのがエサウです。狩りから帰ってきたエサウは、さっそくイサクのもとに向かいました。そして、「お父さん、私が長子エサウです。鹿の肉もとってきました。約束どおり、祝福を私にください」と言いました。しかし、イサクは、先にヤコブに祝福を与えてしまっています。

なので、エサウに祝福を授けることが出来ません。エサウは、そのことを知り、とても激しく怒りました。ヤコブを許すことができず、「殺してやる！」とまで言いました。

それを知ったリベカは、ヤコブを呼びました。「ヤコブ、エサウがとても怒っています。今すぐに逃げなさい！」ヤコブは、リベカの言葉を信じて、家を出ました。

 目指す場所は、ハランという場所です。ここにはラバンという、ヤコブの叔父さんが住んでいました。ヤコブは、しばらくの間、ラバンおじさんの下で生活することになりました。

ハランまでの道のりは孤独でした。家族の下を離れ、一人で向かうヤコブの心はとてもとても寂しく、悲しいものでした。それでもヤコブは進まなければなりません。

旅の途中の、ある夜、ヤコブは石を枕にして寝ていました。すると、ヤコブはある夢を見ました。

夢の中では、天から通るはしごがあって、神様の使い達が上へ上ったり下ったりする夢でした。すると、神様の声が聞こえてきました。「私は、あなたと共にいて、どこに行くにもあなたを守り、またあなたをこの地に連れ帰るであろう。」

ヤコブははっきりと神様の声を聞いたのです。ヤコブはこれまで、イサクやリベカから、たくさん神様の話を聞いていたし、お祈りもしていました。ヤコブは神様がいることは知っていましたが、この時に、初めて本当に「神様がいるんだ！」とはっきりと実感したのです。

このことを通して、ヤコブは、「私は神様から愛されているんだ！」と思うようになり、寂しい気持ちや怖い気持ちが、なくなりました。

そして、ヤコブは、ラバンおじさんが住んでいるハランにたどり着きました。

ハランでは、ヤコブは何度もラバンおじさんに騙され、いじめられ20年間もの間苦労をしましたが、その苦労が実って、ハランを出るころには、沢山の家畜や、財産を得ることが出来ました。

そして、ヤコブはエサウのいる故郷に帰ることを決意します。ヤコブはエサウと仲直りすることが神様の願いであることを知っていたからです。

ヤコブはラバンおじさんの下で一生懸命働きながら得た、全ての財産をもって、ハランの地を出発しました。

すると、旅の途中のある夜また、不思議な出来事がありました。

ヤボク川の近くを歩いていると、いきなり神様の使いが現われて、ヤコブに覆いかぶさってきたのです。ヤコブは最初何が何だかわかりませんでした。しかし、相手が神様の使いであることを知ったヤコブは「きっとこれは神様の試練だ。絶対に負けてはいけない」と思い、必死に戦いました。その戦いは一晩中続きました。そして、ついに、ヤコブは勝ったのです。

神様の使いは、ヤコブに「あなたは、名前をヤコブではなくイスラエルと言いなさい。」と言いました。イスラエルという名前は、勝利者と言う意味があります。

ヤコブは、神様からの試練も、あきらめずに乗り越えていきました。

そしてヤコブは、ついに、エサウのもとにたどり着きます。しかし、エサウはこの時、まだヤコブを許していませんでした。

ヤコブは、エサウのその気持ちを知っていました。なので、ヤコブは、エサウの下に行くまでに、7度も身をかがめて、お辞儀をしました。エサウお兄さんに「あなたを愛しています」と伝えたのです。そして、エサウに「エサウお兄さん、あなたの顔を見て神様の顔を見るようです。」と言いました。

 　最初は怒っていた、エサウでしたが、ヤコブが沢山の贈り物をしてくれたこと、何よりも、何度もお辞儀をしながら歩み寄り、最後は、自分の顔を見て「神様の顔を見るようだ」と言ってくれたことに、感動しました。そして、怒りの気持ちも全部なくなってしまいました。

そうして、ヤコブとエサウは再会を抱き合って、喜びました。ヤコブは、母であるリベカの言葉を信じ、出会った神様を信じ、２０年間の苦労を乗り越えました。そして、最後には、自分を殺そうとする兄弟を愛して神様を喜ばせました。

皆さんも、ヤコブのようにお父さんやお母さんの言葉を信じ、神様を信じ、どんな大変なことがあっても勇気を持って乗り越えていく人になりましょう！